

町 長	副町長	課 長	主 幹	担当スタッフ	合 議

別記様式第4号

会 議 等 結 果 報 告 書			
会議区分	会 議 ・ 打 合 せ ・ 協 議	文書番号	
		決裁期日	令和2年9月3日
名 称	R2年度 第2回 介護保険事業運営協議会・地域包括支援センター運営協議会		
日 時	令和2年8月25日（火） 13時00分 から 14時50分		
場 所	保健福祉総合センター かみん 2階 研修室		
出席者	介護保険事業運営協議会・地域包括支援センター運営協議会委員名簿参照		
内容	<p>別紙議案について、第2回介護保険事業運営協議会 地域包括支援センター運営協議会を実施いたしました。</p> <p><u>○田中会長挨拶</u></p> <p><u>○計画策定委託業者紹介</u>  株式会社 ぎょうせい  北海道支社 街道 拓也様  横浜分室 研究員 滝沢 充雅様</p> <p>リモート会議により、テレビ越しで挨拶をいただいた。</p> <p><u>報告</u></p> <p><u>1 高齢者入所施設感染症対策環境整備について(宮下主査説明)</u></p> <p>対象事業所である認知症高齢者グループホーム ほーぷ  認知症高齢者グループホーム おおぞら  軽費老人ホーム ハイムいしずえ  有料老人ホーム やまびこ</p> <p>以上4事業所に新型コロナウイルス感染症対策地方創生臨時交付金として10万円を給付する。</p> <p>詳細については補足説明資料参照。</p>		

## 議題

### 1 令和2年度上富良野町介護保険特別会計補正予算（第2号）概要について（宮下主査説明）

介護保険特別会計補正予算について説明。

詳細については令和2年度上富良野町介護保険特別会計補正予算（第2号）参照。

### 2 第7期高齢者保健福祉計画介護保険事業計画の検証について（三好主幹説明）

詳細については資料1の「第7期計画の基本目標の概要（重点）の検証について」参照。

## ○質疑応答

加藤委員：特定健診の受診率は良く、事後指導もしっかり行っているため、重症化予防につながっているのではないかと。保健事業と介護予防事業を一体化して、さらに充実して進めてほしい。

鈴木課長応答：平成31年度の健康診断の受診率は道平均13.94%である中、上富良野町は49.21%。全道5位の結果となっている。今年は、住民の皆さんに時間厳守をお願いすることで、待ち時間を大幅に減らし、スムーズに進行できた。これからも時間厳守で実行していきたい。

加藤委員：認知症初期集中支援チームの活動については、人員の面で無理があるということではないのか。

鈴木課長応答：研修を受講した人が組織として動ける体制を整えることが最大の課題であり、全てを町の職員が行うとは限らない。また、関係機関や団体等とも連携して、認知症ケアを考えていきたい。

### 3 第8期高齢者保健福祉計画介護保険事業計画策定について（株式会社ぎょうせいによる説明）

詳細については資料2「上富良野町第8期介護保険事業計画高齢者保健福祉計画」参照。

内容

## ○上富良野町介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 集計結果

配布数 900票  
有効回答数 607票  
回答率 67.4%

詳細については資料「上富良野町 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」参照。

### ○質疑応答

加藤委員：P11（69）の幸福度の結果についてどう読み取ればいいのか。

株式会社ぎょうせい回答：ほかの自治体でも同様の傾向はあるが、割合が低くても「不幸」と感じている人がいるのであれば、支援の必要性を把握し、必要があれば支援につなげていくべきである。

鈴木課長：今回のニーズ調査は緊急事態宣言後の6月に実施したため、新型コロナ禍での生活リズムの変化という点で、結果についてどう考えるか

株式会社ぎょうせい回答：今回はそこまでの分析は行っていないため、今後、ほかの自治体も参考にしながらみていきたいと考えている。

鈴木課長：新型コロナ禍で、外出を減らしたという実態があるので、今回の結果だけで、「閉じこもり」や「交流ができていない」という実態があるとは言えないのではないかと。

新型コロナ禍での状況について、委員の方からも伺いたい。

赤川委員：住民全体で外出は自粛している雰囲気がある。

萩原委員：住民は外出頻度を減らし、通院も減らしている様子である。

加藤委員：外出を控えているという面はみられるが、活動的な方たちを中心に、外出することをあまり気にしていない人もいる。

介護福祉施設事業所（北の峰ハイツ）：デイサービスでは、3月上旬から事業内容を限定していたこともあり、事業所側で制限しなければ、利用者の人数は以前と特に変わりのない印象。

上富良野町ラベンダーハイツ：利用者については特に変化がない印象。新型コロナウイルス感染症の予防として、外出をせず人と会う機会が減ると、認知機能が低下していくのではないかと心配をしている。

内容

内容

社会福祉協議会：小規模多機能型では、感染症を気にして一時期休む人も見られた。ふれあい昼食会では前回の5割ほどの人数での実施となった。新型コロナウイルス感染症により、人との交流がある活動を停止していたため、活動再開を喜ぶ声が多かった。これからも感染症対策を徹底しながら、高齢者が集える機会を増やしていきたい。

田中委員：ふれあいサロンや老人会などの年内の活動は全て中止となり、外出することで迷惑をかけたくないと自粛している人が多い。アンケートの結果は、新型コロナウイルスの影響を受けていると考えてる。

渡部委員：室内で行うイベントの開催は厳しいと考えている。

羽賀委員：4月から平均25名で行っているおりがみカフェは好評で、家に帰って宿題にもできるためとても喜ばれている。

集会を開くときは、必ずマスク着用や消毒を行うなど、感染予防対策を徹底していきたい。

三好主幹：今回のアンケートはコロナ禍の中で行ったため、外出の部分などで影響を受けたものとなっていると思う。計画を策定していく上でいかに対策をしながら進めていくか、また意見をいただきたい。

#### 4 その他

(意見、質疑等なし)

#### 5 今後の予定について

第3回 11月、第4回 2月、第5回 3月